

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200770
法人名	医療法人社団 飯盛会
事業所名	グループホーム いいもり (ユニット名 なでしこ)
所在地	福岡市西区大字飯盛664-1
自己評価作成日	平成27年7月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成27年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げている通り、入居者様お一人おひとりがその人らしく暮らしていける環境作りにも力を入れており、入居者様の要望を取り入れ、職員も日頃から楽しんでいただけるような工夫を凝らし、誰もが笑顔で生活を送れるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、飯盛山のふもとにあり、自然の四季の景観を楽しむことができ、気持ちもゆったりできるところに位置している。建物は母体とした病院の敷地内にあり、2階が宅老所、1階が2ユニットのグループホームであり、特に緊急時の場合において利用者や家族は安心している。12年前の開設当初からの職員を含め長期間継続勤務している職員が多く、働く者としてお互い様の精神で協力・助け合い、昨年管理者となった施設長を支え、一丸となって利用者が安心して生活できるように取り組んでいる。精神科という母体病院との関係で地域との交流は困難があったが、利用者との散歩の折、進んでこちらから挨拶を行う等ホームの取り組みにより、公民館のふれあいサロンに年に1回誘っていただき、食事やゲーム等で交流をしている。また、七夕会やクリスマス会は家族や利用者の友人たちが主体になって実施している。開かれたホームになるよう努め、一歩ずつ前進しており、今後、さらなる工夫と取り組みが期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の唱和とカンファレンスで理念に基づいた目標を毎月立て、ケアを行っているかを確認している。	7年前当時の全職員と理念を見直し、利用者一人ひとりの安心ある生活、地域の信頼構築と開かれた事業所を目指して実践している。理念に基づき基本方針があり、毎年ホームの役割方針についての目標も見直し、更に毎月目標を立てて見える形で評価している。カンファレンスの時、理念を思い起こして利用者個人に応じたやり方を話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの行事に近隣の方を招き、交流を深めている。飯盛神社の季節行事や入居者様と周辺のゴミ拾い、町内の清掃活動にも参加している。	町内会の自治会は法人の病院が加入し、当ホームは入っていないが、公民館のふれあいサロンに年に1回お誘いがあり、食事やゲーム等で交流をしている。また、七夕会やクリスマス会には家族や利用者の友人たちが主体になって実施し、地域と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方に来て頂き、グループホームについて説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、地域の方、ご家族、いきいきセンターの方に出席して頂き、入居者様や職員も参加し、話し合いの場を持ちカンファレンス等で報告している。	会議は、多くの利用者や家族、地域包括支援センター、民生委員、地域の人達の参加を得て2ヶ月毎に開催している。市職員も年に1回参加がある。ホームの利用状況、研修やインシデントの報告、講師を招いての健康教室、介護報酬改定の説明、避難訓練の実施と反省会等、内容を工夫してサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を行い、話し合いの場を作っている。GH協議会主催の市の職員との意見交換会にも出席している。	行政とは日頃から電話で相談することが多く、今年は介護保険制度・報酬改定に伴いより密に連絡を取っている。グループホーム協議会や近隣区の管理者で作っている会で行政の職員と情報交換を行い連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会の参加で得た知識を勉強会で報告し、全職員が共有できるよう努めている。現在施錠状態にあるが、外出の希望があれば添えるようにしている。また、出来る限り散歩等の機会を作るようにしている。	利用者の人権や身体拘束に関する研修・報告会で学ぶ機会があり言葉による拘束に留意している。玄関は施錠、窓は全開不可の現状である。施錠しない時期もあったが、利用者の入れ替わりにより、その後施錠が継続している。利用者からの外出希望については対応しており、散歩の機会も多く持っている。	利用者の自由な暮らしを尊重するためにも身体拘束が利用者に及ぼす影響についてや、安全を確保しつつ鍵をかけない工夫や取り組みのあり方について、今一度、職員皆で検討する機会を持つことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンスにて話し合いの機会を作り、職員間でも注意、指摘し合える関係作りに取り組んでいる。また、院外研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加し、得た知識を他の職員にも報告する場を作り、ご家族に対しても要望があれば説明をしている。	権利擁護についてグループホーム協議会の研修で学んできたことを内部で報告をしている。成年後見制度を活用している利用者が一人いる。家族への情報の提供としてパンフレットやポスターの設置までに至っていない。	成年後見制度等は本人の権利を守るためのものなので、日頃から利用者や家族への情報提供が望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載し、契約時に十分に説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、入居者様の変化に目を配り、日常的に話を聞く機会を作っている。	苦情箱を設置し月に2回チェックしているが、入っていたことはない。家族も参加した避難訓練後、避難経路の街灯が暗いという声があり、改善をしている。多くの家族は週2回から月1回訪問して来るので、その際生活の様子等を詳細に話をし、何でも言ってもらえるように信頼関係の構築に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場リーダーの意見を聞き、現場の意見もリーダーを通じて取り入れている。	管理者は、会議等で職員の意見や提案を聞くようにしていると同時に、常に言いやすい雰囲気を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常時滞在し、代表者に毎日の朝礼で報告、相談を行っている。代表者は、人事考課にて評価し、よりよい職場環境作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職場の募集、採用にあたっては性別年齢など、採用対象にしていない。また、各職員がその能力を活かし、職員が自己アピールできる場であるよう環境作りに努めている。	職員の採用においては年齢や性別の制限はなく、現在30歳代から60歳代の方が勤務しており、開設当初からの職員や長期にわたり勤務している職員も多い。職員一人ひとりの個性や得意とすることを活かし、働きやすい勤務体制を整え、いきいきと働くことができる職場環境を目指している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権擁護委員会に出席、院外研修に参加し、他職員へ報告している。	法人母体である病院の行動制限委員会、身体拘束委員会に参加したり、グループホーム協議会の研修や自主的に参加した人権研修の報告をさせている。また、ホームの研修年間計画の中にも人権教育を取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ごとに必要とされる外部研修の参加や毎月の院内研修への参加を呼び掛けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加盟しており、協会、市などが主催する研修に参加し、		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設長各職員が目を配り声掛け、気にかかる方には個別の時間を作り、話を聞き関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃からご家族の意向を聞き、その意向を反映するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族と相談を持ちながら、必要なサービスを利用できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での出来る事(炊事・選択・掃除)を職員と一緒に言いながら、その日その日の生活を共有している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会やその他の行事にご家族やゆかりの方に声をかけ、一緒に過ごせる機会を作り、情報交換を密にし、コミュニケーションを取りながらケアにも参加してもらえよう働きかける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類、友人との手紙の代筆や電話の取次ぎを行っている。またいつでも訪問出来る様にしており、七夕会やクリスマス会など交流の機会を作っている。	例えば「自宅に帰りたい」との言葉で職員が連れていき、その時家族不在であれば、近所の人に会う等して思いに添っている。月1回訪問美容があるが、個人の希望する美容室があれば職員が連れていく。また、家族と一緒に温泉へ行ったり、外食やカフェに行ったりしてこれまでの関係が途切れないように支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい入居者様同士の散歩や食事の席を同じにしたり、家事参加を呼び掛け合い、入居者様同士がかばいあい支え合っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には契約書に添った説明を十分に行い退去後も不安解消の為相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを優先し、出来る限り希望や意向を取り入れるよう努めている。	職員は担当制になっており、ケアで訪室した折や、利用者がソファで寛いでいる時等にゆっくり話を聞いている。ボロリとこぼした発言なども聞き逃さないようにしている。言葉にしづらくなった利用者からは、顔の表情、仕草等を日常的に観察し、勤務年数の長い先輩職員や家族に、好きな事、苦手な事等を尋ねて意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を大切にしながらご本人やご家族からの情報を元にして、把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが出来る事を出来る範囲で自由に発揮できるように支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い、計画作成担当者として受け持ち担当者が介護計画を作成している。面会時のご家族と面談する機会をもち、ご本人ご家族の意向を取り入れるよう努めている。	利用者、家族から希望や意向を聞き、職員全員で話し合い、利用者本位の暮らしが継続できる介護計画になるよう努めている。計画は定期見直しと、生活状況、希望、意向の変化があった時、その都度カンファレンスを行い、臨機応変の見直しを実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのカルテにて日々の変化、表情等を記録し各職員が情報を共有出来るようにしている。カンファレンスノートや申し送りノートも活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族の要望を聞き、外出や個々の趣味などにおけるご本人らしい時間を過ごしてもらえるよう支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動に参加している。近隣のカフェ、コンビニに行く等、楽しみを見つけて自分らしく生きていけるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院、近隣病院との交流を積極的に行い、説明・情報提供を行っている。又看取り時は訪問診療を利用している。	利用者の大半は併設病院がかかりつけ医であり、入居前からのかかりつけ医受診を希望する場合もある。基本的に通院は家族に依頼しており、困難な場合は、職員が付き添う。併設病院受診時は記録したカルテを提示し、指示を受けている。外部病院とはメモでの情報交換や付き添い者を通してやり取りを行い、情報の共有に努めている。家族へは訪問時に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護職員が週に1回訪問し、入居者様の健康管理、医療活用に活かしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院、近隣病院との交流を積極的に行い、説明・情報提供を行っている。地域の病院との情報交換を行い、退院後の対応を含めた相談をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を取り入れ職員が出来る範囲で具体策（訪問等）を挙げ、ご家族には十分な説明を行った上で医師を交え同意書の作成方針を話し合いチームとしての支援が出来る体制を取り入れている。	開設後3名の看取り経験がある。入居時に、重度化した場合の事業所でできる内容を説明している。心身状態が悪化した早期に、医療関係者、利用者、家族、職員等で今後の対応を検討している。看取りを希望する場合は方針を話し合い、関係者間で連絡を密に取り、利用者が安心できる環境作りと寄り添うケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内研修で緊急時の対策を医師より説明を受け、出席出来ていない職員はレポートを提出している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会で意見交換を行いマニュアルに沿って年2回避難訓練を行っている。非常食、水の備蓄もしている。	スプリンクラー設置あり、昼夜想定火災避難訓練を消防署と連携し実施している。参加者は事業所関係者と地域の民生委員や運営推進会議メンバーが加わり実施している。地震に備え各部屋のタンスが倒れない安全対策がある。地震風水害避難マニュアルの整備までに至っていない。備蓄品は、非常食と水の1日分の蓄えがある。	周囲に民家が少なく民生委員のみの訓練参加だが、有事に備え、地域住民へ協力声かけの継続をはじめ、あらゆる災害を想定したマニュアル整備、研修、訓練実施を期待したい。地域が孤立した場合も想定した、必要物品量の検討も期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対し各職員が人生の先輩であるという認識を持ち常に言葉使い等に配慮している。	利用者の呼称はさんづけで丁寧な声かけを行い、訪室時はノックをして了解を得てから入室するようにしている。ホールの利用者専用の椅子を使用する時も了解を得て使用する等、利用者の尊厳を大事にした対応を職員全員が心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴の姿勢で入居者様と向かい合い出来る範囲で自己決定を促し、納得いくまで話し合っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりにあったペースで過ごせるように配慮している。また入居者様を優先する事を常に意識し、ケアの中に業務を上手く融合している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を選んでもらったり、職員が身だしなみを整えている。月に1度訪問理美容を受けているが、希望者は望む店に行けるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の残存能力に応じて、準備や片づけなど協力し行っている。献立で嫌いな物やアレルギーがある時は別メニューで行っている。	献立とおかずの調理は外注しているが、炊飯、おかずの温め、盛り合わせは、ホームで行い、テーブル拭き、配膳、下膳等利用者ができることを手伝っている。月に数回、利用者と、昼食やおやつメニューを決め、調理を楽しんでいる。また、グループに分かれて利用者と職員が共に外食を楽しむ機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量や水分量のチェックを行っている。摂取量が少ない人には十分取って頂ける様、摂取表を作り、こまめに声掛けを行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後の洗面時、食後の歯磨き、入れ歯の洗浄をしたり、声掛けにて促している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ、リズムをつかむようにし、声掛けのタイミングをはかり、排泄の失敗やおむつの使用量を減らすよう心掛けトイレで排泄して頂ける様努めている。	入居前は失敗が多く、リハビリパンツとパット使用していた利用者が、排せつリズムの把握やサインを観察し、序々にトイレ誘導で、排泄が可能になり、昼間は下着にパットで過ごせ、笑顔が増えた事例がある。トイレ使用後は、職員が汚染の確認を行い、掃除を徹底し、いつでも気持ちよく使ってもらえるように配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各職員が重要性を理解し、水分補給や運動を意識し、個々に応じた薬の調節を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望を取り入れ、希望の時間に入浴できるように取り組んでいる。拒否が見られる方には声掛け方法やタイミングを計っている。	広い浴槽と個別浴槽がある。足が伸ばせて気持ちいいと広い浴槽を好む方、一人でゆっくり入浴を希望する方など、好みに応じた支援をしている。入浴拒否がある時は無理強いせず、時間をあけたり、他の職員が地域の方言でお誘いしたりして工夫しながら対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みのある寝具を利用したり、ホットミルク等飲み物を用意する等して安心してもらえるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や薬の説明書をカルテに閉じ、職員がいつでも確認出来る様にしている。申し送りを徹底、職員一人ひとりが薬の目的、重要性を理解し支援を行っている。又服薬の際は複数の職員で声だし確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴を活かし、園芸、家事手伝い、カラオケ、歌番組視聴、民謡サークル等その方にあった楽しみをみつけ支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は散歩や買い物、ドライブに誘ったり花見やイベントを企画し、ご家族や近隣の方への参加を呼びかけ、交流の機会を作っている。	散歩を日課に取り入れ、ホームで飼っている犬と一緒に散歩を楽しむこともある。自然豊かな風景や外気に当たり五感の刺激になり、気分転換ができています。体力低下した利用者も、玄関先まで出て、短時間でも外気に触れてもらうよう努めている。お花見やドライブ、また家族と外出するなどの支援をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じ希望があれば一緒に買い物に行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば家族に電話したり、電話を取り次ぐようにしている。了承を得た上で、手紙や電話のやり取りをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の作った作品を飾ったり、季節に合った飾りつけをしている。	ホールには季節の生花が飾られ、テーブルや、棚等は安全に配慮した配置となっている。利用者の特技を活かした作品や共同で作成した壁絵や行事ごとの写真が貼られ、楽しい雰囲気伝わります。テレビの前にはゆっくり寛げるソファがあり、利用者同士で会話を楽しむことができます。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名が座れるソファの設置、円形の食卓テーブルや座卓テーブルや独り掛けの椅子も設置し、くつろげる空間作りをしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のタンスや仏壇等持ち込んだり、ご家族の写真を飾ったりしている。	居室には大きな窓があり、入口の引き戸には障子の小窓が組み込まれ、廊下の明かりが柔らかく差し込み和風である。自作の品や家族写真、親しい人からの贈物の品々を思い思いに飾ったり、自宅から花嫁家具として永年使い慣れたタンス、仏壇、好きな図書を持ち込んだりして、落ち着けて寛げる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレには手すり、浴槽には手すり滑り止めを設置し、台所にはIHを採用、流し台の高さは入居者のサイズにしている。		